

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア、中国・人民元
マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア



中国

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

今月のトピック

超大型台風に襲われたフィリピン

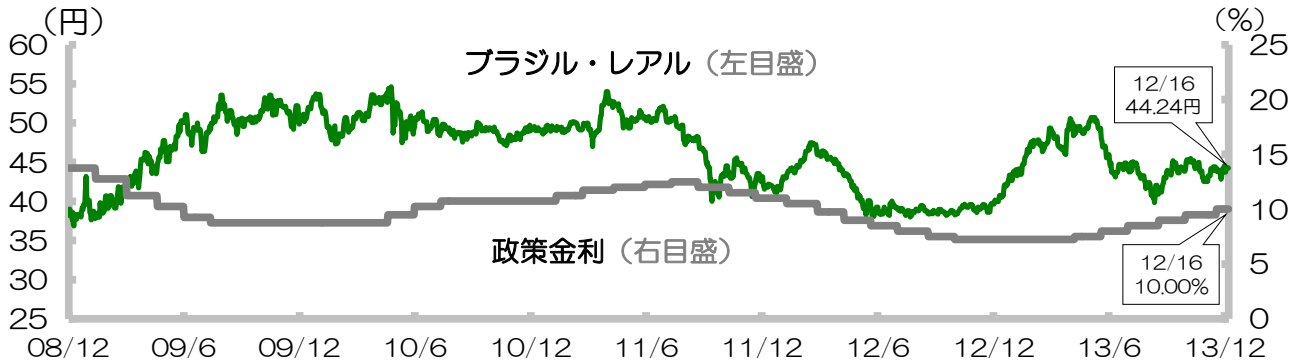
11月にフィリピン中部を襲った台風は、最大瞬間風速は100メートルを超え、高潮は最大7メートルに達したとも言われています。また、死者・行方不明者をあわせると7000人を超える被害をもたらし、今も約400万人が避難生活を送っているとのこと。レイテ島の中心都市タクロバンではほぼ全ての建造物が倒壊したと報道されており、フィリピン政府はインフラや農業などの推定被害総額は5億5,900万ドル、フィリピン中部の住宅や学校、道路、橋の再建コストは60億~70億ドルとなり、GDPの2%以上に達する可能性があるとしています。このことに加えて、同国政府は同台風による被害が2014年の実質GDP成長率を1%押し下げるとみています。一方、世界銀行はフィリピンのGDPについては毎年台風によって押し下げられていると分析していることから、経済成長見通しを2013年については7.0%から6.9%に、2014年についても6.7%から6.5%に、小幅の下方修正にとどめました。また、世界銀行は2015年にはインフラの復興需要や生活支援などによってGDPは押し上げられるとして、成長率見通しを6.8%から7.1%に上方修正しました。ただし、世界銀行の見通しは「時機を得た復興が実現すれば」という条件付きであり、台風直後には同国政府の救援活動が後手に回り大統領への批判もみられる中、早急な対応が求められています。



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ブラジル・レアルは景気鈍化、米国金融政策を巡る観測から米ドルに対して下落～

ブラジルでは、7～9月期の実質GDP成長率が前期比でマイナスに転じたことから景気が再び鈍化するとの懸念が広がりました。政策金利は0.5%引き上げられ10%となりました。ブラジル・レアルは景気への懸念やインフレの高止まり、米国でのテーパリング(量的緩和政策の縮小)の早期開始観測を受けた金利上昇などから、米ドルに対して下落しました。ただ主要通貨に対して円安が進行したことから、対円では上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ブラジル・レアルの下値不安は乏しいが、上値も限定的か～

景気についてはGDPへの項目別寄与をみると、家計支出、政府支出はプラスに寄与した一方、固定資本や純輸出(輸出－輸入)がマイナスとなっています。直近では11月の自動車生産台数及び同輸出、製造業PMIなど生産関連指標に加え、10月の小売上などの個人消費も不振となっています。しかし、中国景気の底入れや好調な米国経済から今後は外需が下支えになるとみえています。政策金利についてはインフレ率の上昇が止まっていることや景気への配慮から据え置かれるとみえています。ブラジル・レアルは政府・中央銀行の介入が行われるとみられ下値不安は乏しいものの、上値の重い展開が続くとみえています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～メキシコ・ペソは上昇後、米国金利の上昇を受けて反落～

メキシコでは、7～9月期実質GDP成長率が前期比でプラスとなり、景気は底入れから緩やかな拡大基調に転じたとみられます。メキシコ・ペソは米国テーパリングの早期開始観測から下落しましたが、その後は利下げ見送りを受けて反発したことなどもあり、対米ドルではほぼ「往って来い」、主要通貨に対して円安が進んだことから円に対しては上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～メキシコ・ペソは利下げ打ち止め、景気底入れから堅調な展開を予想～

景気については、1～3月期を底に4～6月期の底這いから7～9月期には上向きへ転じたとみられます。10月の鉱工業生産は市場予想を上回り、自動車生産、同輸出とも前月を下回ったものの増加基調は維持しています。同国はインフラや地理的観点から輸送用機器の有力な生産拠点として注目されています。海外就労者からの送金額は米国の雇用改善もあり前月比で増加に転じていますが、トレンドを形成するまでにはなお時間を要するとみられます。メキシコ・ペソは、利下げ打ち止めや景気底入れなどから堅調に推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～ トルコ・リラは対米ドルではレンジ内での動き ～

トルコでは経常収支の改善が一服となった一方、7～9月期の実質GDP成長率が市場予想を若干上回り景気回復の持続がみられました。政策金利の変更は見送られています。トルコ・リラは、経常収支の改善傾向が一服したこと、米国テーパリングの早期開始観測などから下げる場面がありましたが、失業率が市場予想をやや下回ったことから反発し、対米ドルではレンジ内での動きとなり、対円では上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ トルコ・リラは上値の重い展開か ～

景気については、足元では消費者信頼感指数が改善したものの、鉱工業生産が大幅に減少し同信頼感も低下するなど、減速を示す指標もみられました。政策金利については景気への配慮などから据え置かれるとみられます。本年6月以降の金融引き締め継続によりインフレ率が漸く落ち着きをみせ始めました。ただその水準は依然高く、金融当局はコリドー金利の調整による引き締めを続けるとみています。トルコ・リラは、経常収支の改善一服や米国テーパリングの早期開始観測などから上値の重い展開が続くとみています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～ 南アフリカ・ランドは上昇 ～

南アフリカの政策金利は5.0%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、7～9月期の実質GDP成長率が前期から減速したこと、財政収支、経常収支が悪化したことが下落要因となったものの、米国の良好な経済指標やユーロ圏の追加金融緩和観測の後退などを受けて両通貨が対円で上昇したこともあり、上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ 南アフリカ・ランドはレンジ内での推移か ～

経済指標は市場予想に対して、製造業PMI、同生産がともに上回った一方、小売売上高は下回りました。鉱物生産量は鉱山ストライキが深刻化した前年から大幅に伸びました。当面のインフレ率はターゲットの上限に近い水準で推移するとみられます。準備銀行は景気や物価動向を勘案し、政策金利を据え置くかとみています。南アフリカ・ランドについては、恒常的な財政赤字、高水準にあるインフレなどが通貨安要因と考えられますが、相対的に高い金利水準が続くとみられることから、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】 ~オーストラリア・ドルは自国通貨安を促す準備銀行総裁の発言などを受け続落~
 オーストラリアでは政策金利は据え置かれました。オーストラリア・ドルは12月初旬には反発しましたが、米国の金利の上昇や準備銀行総裁の自国通貨安を促す発言が報道されたことなどから、対米ドルでは大幅に下落しました。ただ主要通貨に対して円安が進行したこともあり、対円では下げ幅は限定的でした。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ オーストラリア・ドルの上値は重いと予想 ~
 景気については、7~9月期の実質GDP成長率は市場予想を下回りましたが、住宅市場などの改善が続いています。準備銀行では金融緩和政策が景気の下支えとなっているものの、同効果の拡大・浸透には時間を要するとしています。設備投資については資源開発以外の業種では増加がみられています。中国景気の底入れなどもあり、当面は緩慢ながらも経済の成長は続くとみられます。政策金利については当面据え置かれ、オーストラリア・ドルは準備銀行総裁の発言などから上値は重いとみています。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】 ~ ニュージーランド・ドルは上昇 ~
 ニュージーランドでは政策金利は据え置かれましたが、準備銀行がインフレ圧力の増加を受けて来年前半には利上げが必要になるとの見方を示したことから、市場金利は上昇しました。ニュージーランド・ドルは、主要貿易相手国である中国の景気指標の結果が良好だったことに加えて、国際商品市況の上昇を好感したことなどもあり、上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ ニュージーランド・ドルは上値の重い展開か ~
 金融政策については、準備銀行は住宅市場の動きやインフレに対して懸念を表明していることから、今後は引き締め気味になるとみています。ニュージーランド・ドルについては、準備銀行が自国通貨高に対しても懸念を表明していることから、上値の重い展開が予想されます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ

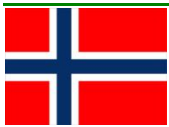


【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは、対円で上昇～

カナダでは、政策金利は据え置かれましたが、長期金利については米国でテーパリングの早期開始観測が高まり、米国長期金利が上昇した影響などもあり、上昇しました。カナダ・ドルは、経済的な関係の深い米国の雇用統計など良好な経済指標を受けて、上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは神経質な展開が続くか～

カナダでは、インフレ率は中央銀行の目標水準の下限近くで概ね安定しており、失業率も比較的落ち着いています。中央銀行総裁が現行の金融緩和策を当面継続する旨の発言を行っていることから、政策金利の引き上げは当面は行われないとみています。カナダ・ドルは、引き続き米国の経済指標や資源価格の動向を受けやすく、神経質な展開が続くとみています。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネは上昇するも上値は重い～

ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれました。ノルウェー・クローネの対円での動きは、7～9月期の実質GDP成長率が市場予想を小幅に上回ったことに加えて、堅調に推移する米ドル、ユーロに連れて上昇しました。しかしその後は、中央銀行が政策金利の据え置きに際して利上げ時期を従来の予想から遅れるとの見通しを示したことなどから、上値が重くなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネはレンジ内での推移か～

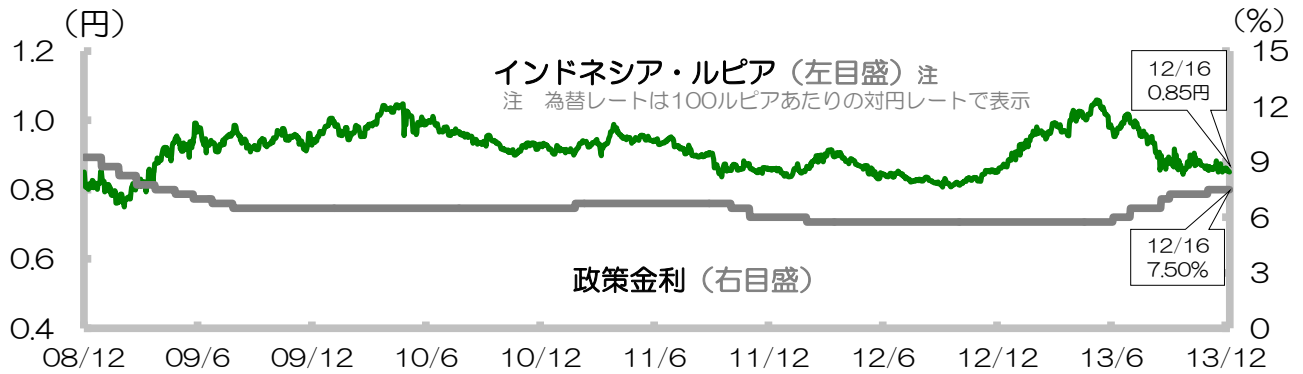
景気については、製造業PMIが依然として堅調に推移していますが、鉱工業生産は市場予想を下回ったほか、小売売上高は前月からマイナスとなりました。中央銀行は、利上げ時期が遅れるとの予想を示した際、景気減速や不動産価格の下落を指摘しており、当面の政策金利は現行の低水準を継続するとみています。ノルウェー・クローネは、景気回復は緩やかな状況にありますが、恒常的な財政・貿易黒字が下支えとなり、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



【足元の金融市場の動き】～ インドネシア・ルピアは軟調な展開 ～

11月の消費者物価指数は+8.37%(前年比)と市場予想を下回ったものの、前月からは小幅に上昇し、インフレ圧力が依然として強いことが示されました。10月の貿易収支は赤字幅が前月から拡大するとの市場予想に反して、小幅ながらも黒字となりました。中央銀行は、2014年のインフレが目標レンジ(3.5%～5.5%)に収まるとの見方や、経常赤字の拡大に歯止めがかかったこと等を理由に、政策金利を据え置きました。インドネシア・ルピアは軟調な展開が続きました。

【当面の金利・為替の見通し】～ インドネシア・ルピアは、一段安の可能性も残る ～

政府当局は、経常赤字の削減を重視した政策運営を行っていますが、外国為替市場では経済ファンダメンタルズの悪化が注目される中、インドネシア・ルピアの下落には歯止めがかからない状況です。経常赤字の削減を図るためには、ある程度の成長率押し下げも止むを得ないと考えられることから、引き続き難しい政策運営を迫られそうです。市場金利はじり高気味、インドネシア・ルピアは一段安の可能性も残っているとみています。



中国



【足元の金融市場の動き】～ 中国・人民元は対米ドルで上昇 ～

中国では、11月の輸出が+12.7%(前年比)、小売売上高が+13.7%(同)、鉱工業生産が+10.0%(同)と良好な結果となったことに対し、輸入や固定資産投資はやや減速するなど、経済指標は強弱混在しています。景気については、内需に弱さがみられるものの、全体としては堅調に推移しています。こうした中、中国・人民元は対米ドルで一時最高値を更新しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ 中国・人民元は一段の上昇も ～

来年の経済政策の枠組みを決める中央経済工作会议が開催され、2014年の主要経済目標が議論されました。人口動態や足元の経済動向は中国の経済成長率の鈍化を示唆しているため、2014年の成長率目標は従来よりも低めに設定されることも考えられますが、仮にそうなると市場参加者は一時的に失望感を示す可能性もあります。中国・人民元は、全般的に経済指標が堅調なことに加えて、政府による段階的かつ着実な金融自由化の一環としての通貨の国際化が含まれていることもあり、底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。